新しい登録Vグループご紹介

11 月に２件の登録がありました。詳しくはボランティアセンターにお問い合わせください。

【さくら会】

活動内容：大正琴の演奏
活動目的：高齢者の方に音楽を聞いたり歌ったり楽しんでいただきたいため

【ドレミの会】

活動内容：コーラス、ハープ、琴、元気アップ体操
活動目的：活動を通じて交流を図る。また、会員自身も楽しみ有意義な時間を共有する

新しい年の新しい２つの講座

ボランティアセンターでは年明けにボランティア講座「シニア編」「技術編」の２つの講座を計画しています。

未来の福祉教育ボランティア講座

～あなたの「得意」を
活かしませんか！？～

日　時：１日目　１月 18 日（水）
14 時～16 時
２日目　１月 24 日（火）
14 時～16 時
場　所：寝屋川市立市民会館　研修室
対　象：概ね 60 歳以上の市民でボランティアに関心のある人
定　員：30 人
内　容：講　義「福祉教育の魅力について」
ワーク「実際に活動するボランティアの声をきいてみよう！」
講　師：摂南大学　講師／博士（人間科学）上野山裕士氏 他
参加費：無料

ボランティア活動力アップ講座

～見直そう！地域活動における
コミュニケーションの力
私のコミュニケーション力～

日　時：１月 26 日（木）
14 時～16 時
場　所：寝屋川市立市民会館
第１会議室
対　象：市民、ボランティア活動者（校区福祉委員・ボランティア部員など）
定　員：60 人
内　容：ワーク・講義「地域活動におけるコミュニケーションの力」など
講　師：川島憲志氏（フリーランス）
参加費：無料

申込みはいずれも

１月５日（木）から社会福祉協議会へ電話、FAX、QR コードで
（定員になり次第締め切り）

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催を中止することがあります

ボランティアセンター通信

編集発行：寝屋川市社会福祉協議会ボランティアセンター
電話：０７２－８３８－０４００
URL　http://www.neyagawa-shakyo.or.jp

ホームページ　ツイッター　インスタグラム　フェイスブック

上記の QR コードを携帯電話やスマートフォン等から読み取ると、本会の各 SNS ページにつながります。

「ありがとう」の声はボランティアの活力 !!

移送サービスVグループ「レインボー」

移送サービスボランティアグループ「レインボー」は、歩行が困難な高齢者や障害者の方を車イスごと乗車できる福祉車両で病院などに送迎する運転ボランティアです。

当サービスは、社会福祉協議会の事業として実施していますが、実際に車の運転を担っているのはボランティアの人たちで、利用者の皆さんとボランティアとの「信頼関係」の上に成り立っているサービスです。

利用者の皆さんからは「いつも優しく親切に接してくださるボランティアさんたちに感謝しています。この送迎がなかったら病院に行くことが難しいので、たいへん助かっています」。「利用には登録や予約が必要ですが、希望の予約がとれた時は、電話口で喜んでしまいます」。などの声が寄せられています。

「今日も笑顔で送迎」のボランティアスタッフ

念入りな行き先確認も大切な作業のひとつ

■□■運転ボランティアのおもい

○利用者の「ありがとう」の声に、ボランティア活動が誰かの役に立てていると感じます。
○コロナ禍で活動が休止になった時は、利用者は困っているやろな？と気になりました。レインボーの活動は、それだけ有意義なものであるかもしれませんね。
○やる気、元気がある限り、これからも安全運転を心掛けてがんばります。

楽しく活動してくださるボランティア、募集中です!!

※本紙中「社協」は寝屋川市社会福祉協議会、「V」はボランティアのことです

心通う話の聴き方「傾聴基礎講座」に学ぶ

傾聴ボランティア【１４の耳】が「寝屋川市民講座」として市立市民会館で傾聴基礎講座を開きました（11 月７日）。

講座の内容は話を聴くことの大切さ、傾聴の基本的な心構え、３本柱 ①傾聴モード ②共感的理解 ③受容的態度などでした。

講義後に受講者全員で寸劇。<あまり良くない会話例>と<傾聴モードの会話例>を体験しました。

【受講者の声】

○講師の分かりやすく熱いお話から、うなずきやたくさんの質問が寄せられ、傾聴への関心の高さが伺えた。

○《人の話が聴けていますか》のチェックリストでは、自分の傾向を知れて良かった。

【ボランティア相談員の想い】

傾聴ボランティア活動の需要増加の中にあって、今回ボランティア相談員の立場で受講しました。

「傾聴」とは良好な人間関係の基本である。自分の五感をフルに使い、深い思いやりと温かい心で、相手の話を一生懸命に聴く。さらに、自己も他者も個性としてとらえ、受けいれる。「傾聴」を通して信頼関係を築く。など、多くの学びがありました。

（斉藤）

受講者に傾聴の基礎を伝える【１４の耳】代表の久保山さん

ボランティア活動再開の気配

コロナ禍で施設や自治会などの、ボランティア活動依頼が激減して３年。しかし、徐々にボランティアセンターに活動依頼が増えてきましたが、新型株の流行でイベント中止になる事態も多々ありました。

４月と９月は活動がありませんでしたが、５月から 11 月までの活動は登録団体で 11 件、個人ボランティアでは 15 件あり活動の再開につながっています。

□■ボランティア相談員のおもい

この間、自治体の規制などに従っての相談活動でした。ボランティアセンターには活動依頼もなくむなしさもありましたが・・・いよいよ需給調整始動。かな？１日も早いコロナ禍の収束を願っています。

多くの気づき出し合えた座談会

明和校区「災害時に備えた地域丸ごと座談会」

11 月 11 日、明和校区の「東障害福祉センター」で地域住民と要支援者たちが地域で支える災害に備えたまちづくりをすすめるため、お互いの理解を深めることを目的にした座談会が開かれました。

自治会関係者、校区福祉委員会、障害者団体より参加がありました。アイスブレーキング後、各グループに自治会・障害者関係者が交わるように３人の小グループに分かれました。進行役よりお題が出され、それぞれがフリップに思いを一言で記入して発表。災害が起こった時、自宅や避難所での心配事から、この地域に必要な取り組みなど７つのお題がありました。

自治会役員からは、地域住民の安否確認や避難所の運営などへの思い、障害者関係者からは自身や子供など当事者目線での意見が多く聞かれました。

３人のメンバーで細かく話合われた「災害時に備えた地域丸ごと座談会」

参加者より「高齢者のことは想像がつくが障害者とひとくくりするのではなく、身体障害・知的障害・聴覚障害・難病でそれぞれ気になることや困りごとが違うことに気が付いた」など感想がありました。

小グループでの検討で、細かい意見や説明を聞くことができ、話と交流が深まりました。

（野涯）

地域で見つけたほっこり話

北風が吹き始めた昨今、地域でこんな話を耳にしました。

○堀溝のＹさんが、夜の見守りをしてくださって心強く思っています。（60 代女性）

○塾から帰りの９時頃、暗くてちょっと怖いけれど、橋のところでおっちゃん（Ｙさん）の顔を見るとほっとします（中学２年女子）

○いつも通学路や夜回りで地域を見守ってもらって、とても感謝しています。僕も退職したら見守り活動などをしたいと思います。（50 代男性）

温かい活動は住民の心に響き次世代にも引き継がれそうです。

おめでとうございます

寝屋川市社会福祉協議会設立 70 周年記念・第 14 回寝屋川市社会福祉大会が 12 月４日、寝屋川市立市民会館大ホールで開かれました。

当ボランティアセンターに登録の多くの団体や相談員が長年の福祉活動への尽力や活躍に対して「市長表彰」「会長表彰」「会長感謝」を受けました。